

2006年 わらじの会 活動報告

わらじの会は越谷・春日部を中心に29年前から活動しています。

現在、身体障害者通所授産施設「くらしセンター・ベしみ」/デイケア・パタパタぶていっく・ぶあく/生活ホーム・オエヴィス/生活ホーム・もんてん/黄色い部屋
わら細/越谷市生活支援センター・苞の8つの場を中心に活動しています。

農園へはこれらの場に関わっている人や普段わらじの活動には参加できない人などが月4回に分かれて行っています。

手作り班 農園報告書

今年の農園は作物の収穫もさることながら、参加者の意気込みを感じられる農園だった。月に一度だけでは雑草も生え放題、作物も育ちすぎてしまい原野化していたが夏を過ぎた頃から「畑に行くぞ!!」モードが炸裂し、たとえ1時間でもいいから畑の様子を見に行くことが増えてきた。

秋が深まる頃にはすっかり『畑』になり、作物も元気に育った。今年も、今まで絶対に参加しなかったメンバーも農園に行き、誰よりも働いてみんなを驚かせた。実習の学生も、他の活動で畑には行けなかった人も農園で草を抜き、耕し、種を植え、収穫をした。充実した農園だったと思う。



・・・参加メンバーの感想・・・

- ☆ (寝坊をして参加できず) やったという気がしないので来年はがんばりたい。
- ☆ 何年かたつうちに畑らしくなってきた。アンコさんの綿もたくさん取れた。私の大根も今年こそ頑張って作りたい。
- ☆ 種まきをしたら収穫まできっちり見て行けたらいいと思う。収穫したら料理をしたい。
(成長を見届けて収穫したら喜びも増える。)



- ☆ アンコさんと綿を取った。肥料をたくさん運んだ。大変だった。また行きたいです。
- ☆ 参加しなかった人が参加できたのがよかった。
- ☆ 畑は面白いです。大根、サツマイモ、ゴーヤ…いっぱい作った。お芋が大好き。お土産があるからまた行きたい。ピーマンも好き。もっとたくさん行きたい。
- ☆ いけない日が続き作物が成長しすぎたのが残念だった。

・ ・ ある日の Y 子さんと H さんの会話 ・ ・ ・



「畑、行ったね。楽しかったね。』『Y 子ちゃん泣いたじゃん。』『泣いてないよ！泣いてないです!!』『泣いたからこっちがいっぱい働いたんだよ。』『泣かないです!!』（慌てて話題を変える Y 子さん）「綿、取ったね。』『うん。フワフワでハムスターみたいだったね。』『また行こうね。H ちゃんもまた行こうね。』『ううん…。今度は泣かないんだよ。ちゃんと働くんだよ!!』『泣いてないです!!!!』『泣いたくせに…。』



くらしセンター「べしみ」からの 農園報告



ごまは 2 年目。

今年は、去年の教訓を活かし、1 穴に 5 粒ずつ撒いた。去年は、1 列に撒いたら、ほとんど発芽して、間引きが大変だったので…しかし穴を深くし過ぎたり、撒いた日に雨が降って種が流れてしまったりで、発芽までに時間がかかってしまった。だが、順調に育ってくれた。摘芯を忘れて、背丈よりも大きくなった。今年は、知り合いの方より、唐箕（写真）を送っていただき、

去年よりはゴミ取

りも楽だった。ごまは、あまり手がかからず、収穫した葉っぱをむしるのも、通所者のほとんどが出来るし、ごまを振り落とすのは、誰がやっても楽しいし、栄養も豊富だし、来年もやりたい！と思っている♪ゴミ取りは少し大変だけど。農園は、作業が出来る人も、出来ない人も、癒される場所にもなっています☆
べしみ職員 田島健太郎 →ダンボール製の唐箕（とうみ）



べしみでは、ごまをクッキーにして販売しています。給食でごま和えにしたりもします♪とても好評です。

私は、わらじの農園隊長として、毎月 農園報告を作っていますが、わらじ内の農園会議をきちんとやって連携をとってやって行きたいと思っています。 べしみ通所者 藤原篤哉



芝生に寝転ぶきみ子さんに芝をかけて遊ぶ静佳さん(写真右)



綿づくり

◆チームワーク作りは大事よね・・・年数も大事？

わらじの会でも畑を二つほどまかなっている。一つは通所授産施設暮らしセンターべしみがあある越谷市恩間新田。近所の人に借りている。もう一つはさいたま市にある「見



自然は好きだけれど、虫は嫌いだと言っていた二十歳の頃が懐かしく思えるが、今では多少の虫にも愛情を感じることができるほどにはなった。ほおっておくとすぐに草ぼうぼうの野原状態になってしまうが、それでも、なんとか畑らしさを保つこともできている。

「手作り班」(デイケアパタパタの活動の一つ)の人たちと畑に行くようになってからは6年になる。最初は雑草取りのみ・・・そのうちに少しは作物を植えるけれども、なかなかチ

ームワークが取れない感じがしていた。なんだかみなさん遠慮がち。手作り班はパタパタに通っている通所者数人と主婦と職員で活動している。主婦の中には障害を持つ人のお母さんもいるが、自分の子どもたちとは一緒に活動はしない。そして、みなさん自分の畑の経験はあるのに遠慮をしているのか、畑のやり方など教えてくれなかった・・・。



◆「えこひいき農法」なんて知ってます？

ところが・・・ところが・・・。今年は何かが違っている。畑では皆テキパキと思ったように自分で動いてる。楽しんでる。

パタパタ・べしみ合同で畑に行くようになり、月に1回から2回程度足を運ぶようになったからかもしれない。または、「えこひいきな野菜の作り方」のせいかもしれない。どういうことかという、べしみ職員の健太郎君は「ごま」を植え愛し、私は「棉」を植え愛する。つまり、畑に行くのは自分が愛する作物に会いに行き、面倒をみに行くためなのである。そのついでに、他の事もするのである。そんな姿を見た巽さんが「私は大根を育てます」と言ったが、昨年はやはり月に1回程度の足の運びでは、良いものができなかった。

「今年は絶対に」という思いは手作り班の皆にも伝わるのか、先日は佐藤良子さんのご両親が大根の種を植えた後に、日曜日にこっそり様子を見に行ったという。なんてステキな愛情！



◆夢に・・・ほんの少しずつ近づいて・・・

よしこさんも最初は「畑いや・いきたくない！いきたくないあい」と畑に行く途中の車の中で大声で叫んでいた。あんまりうるさいので「わかりました。じゃあ、行かなくていいですから、ここで降ろします、ここから一人で帰ってください」等と脅し、畑に連れて行ったものだった。けれど、お母さんに「おみやげ」を持ち帰れる畑は最近はお気に入りになっているようだ。よしこさんはお母さんと二人暮らし。





今年は、綿をみんなで収穫することができた。2003年から植え始めた綿。最初の一年は植えただけで花を愛でるだけで終わってしまった。二年目はわずかしかないう種を蒔いたので、誰にも触れさせなかった。三年目の昨年は、茶綿を初めて植えたので、これもまた「見てみて」と見せるだけで、収穫も手伝ってもらわなかった。けれど、今年は昨年の収穫した種がたくさんあったので、みんなで収穫したいとたくさん植えた。種まきも手伝ってもらった。草取りも・・・そして・・・ほわほわの綿をみんなで収穫できた。収穫する時に綿の木をお尻で押して倒してしまっても、とり方を失敗しても、少しくらい落としても、来年蒔くには十分なくらいの種を収穫することができそうだから・・・。そうしたら、山本ひとみさんが喜んだ。畑嫌いのひとみさんが喜んでくれた。「気持ちがいい、かわいい」と言って綿の収穫を楽しんでくれた。

ひとみさんはぬいぐるみやふわふわした動物が大好き。市営住宅に移る前はハムスターを飼っていて、毎日手に乗せて触っていた。そのひとみさんが「ぬいぐるみみたい」と言って、よろこんで綿を収穫してくれた。

◆「ほわほわ」効果で一步一步前に進んで・・・！



そしてなんと、サツマイモの収穫もし、堆肥を運んで撒いてくれた。ひとみさんは畑が嫌いでもいつもお休みをしていた。6月にきた時は暑くて、その後はずっと休んだ。基本的には汗をかくお仕事は苦手で、願わくば避けて通りたい人である。畑で用事を頼むと横に首を振った。この日も畑に来るつもりはなく、なかば強引につれてきてしまったのだ・・・。なのに・・・。堆肥を撒く時など、よしこさんが「どこに撒くのよお・・・わかんない」と声をあげると「いいんだよ、そこいらへんに撒けば」と大胆発言をし、しかもその姿が堂に入っている。何が好転するのかわからない・・・私は「綿効果」だと思っている。そして「さつまいもお持ち帰り効果」。

そのときはいい顔をしていても、懲りてしまうとしばらくは家にこもってしまうひとみさんだけど、畑のあとの手作り班の作業には出ていたから、きっと嫌ではなかったんだろうと思う。今度はほわほわの綿の種を分ける綿くりと一緒にやろう。糸を作って布を作って手作り製品になるまで、あと何年かかるかわからないけれど、夢に一步一步近づいている気がする。

(文責 今井和美)



今年の収穫した作物は

オクラ・サツマイモ・ゴーヤ・たまねぎ・赤たまねぎ・ちんげんさい・じゃがいも・大根・ゴマ・和綿・赤唐辛子・ミント・しそ・キャベツ・(大根をビール漬けやたくわんにして売ってみました。) など・・・。